

青森県経済統計報告

平成 27 年 11 月 2 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 27 年 10 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,307,030 人（対前月 693 人減少）
自然動態	592 人減少（出生者数 736 人、死亡者数 1,328 人）
社会動態	101 人減少（転入者数 1,521 人、転出者数 1,622 人）

2 本県の経済動向（平成 27 年 8 月・9 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、緩やかに持ち直している。
青森県景気ウォッチャー調査結果によると、先行き判断 D I については、年末の動きに期待が見られるものの、プレミアム商品券の効果の反動やアジア諸国の景気悪化等の懸念から、前期比 5.3 ポイント減少の 49.5 となった。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 …… 2
・平成 27 年 8 月の**青森県鉱工業生産指数**（平成 22 年=100）は、季節調整済指数が 107.0 で、前月比 0.6%の上昇となり、2 カ月連続で前月を上回った。また、原指数は 103.9 で、前年同月比 5.4%の上昇となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。
・平成 27 年 9 月の**大口電力使用量**は 2 億 2,156 万 kWh で、前年同月比 11.2%増となり、5 カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-2) 雇用労働 …… 3
・平成 27 年 8 月の**定期給与**は 214,311 円で前年同月比 1.8%減となった。**総実労働時間**は 150.1 時間で前年同月比 1.7%減、**所定外労働時間**は 10.6 時間で前年同月比 7.0%増となった。
・平成 27 年 9 月の**有効求人倍率**（季節調整値）は 0.96 倍で、前月を 0.01 ポイント上回った。また、**新規求人倍率**（季節調整値）は 1.33 倍で、前月を 0.01 ポイント上回った。
・**雇用保険受給者実人数**は 7,020 人で、前年前月比 3.7%の低下となった。
- (2-3) 物 価 …… 5
平成 27 年 9 月の**青森市消費者物価指数**（平成 22 年=100）は、総合指数が 103.7 となり、前月比 0.2%の上昇、前年同月比 0.3%の下落となった。
- (2-4) 個人消費 …… 6
・平成 27 年 9 月の**大型小売店販売額**は、全店舗ベースが 128 億円で前年同月比 0.4%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月と同水準となった。
・平成 27 年 9 月の軽自動車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 4,244 台で、前年同月比 8.3%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。
・平成 27 年 9 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 989 千人で前年同月比 6.4%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は 147 千人で前年同月比 4.8%増となり、4 カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-5) 建 設 …… 7
・平成 27 年 9 月の**新設住宅着工戸数**は 693 戸で、前年同月比 26.0%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。
・平成 27 年 9 月の**公共工事請負額**は 172 億 9,800 万円で前年同月比 22.8%減となった。また、年度累計請負金額は、6 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 …… 8
平成 27 年 9 月の**企業倒産**は、件数は 4 件で前年同月比 33.3%減となった。負債総額は 4 億 5,300 万円で前年同月比 4.1%増となった。

（3）景気動向指数 C I（平成 27 年 8 月分）…………… 9

先行指数	117.9（前月を 2.0 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した）
一致指数	120.9（前月を 1.5 ポイント上回り、3 カ月ぶりに上昇した）
遅行指数	115.1（前月を 2.4 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 27 年 10 月期）…………… 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断 D I	…49.3（前期比 4.0 ポイント減、3 期ぶりに 50 を下回る）
3 カ月後の景気の先行き判断 D I	…49.5（前期比 5.3 ポイント減、2 期ぶりに 50 を下回る）

1 青森県の推計人口（平成27年10月1日現在）

【概況】

平成27年10月1日現在の本県推計人口は、1,307,030人で、前月に比べ693人の減少となった。

○自然動態

出生者数が736人、死亡者数が1,328人で、592人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,521人、転出者数が1,622人で、101人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女								
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
26.10.1	1,321,895	620,565	701,330	-0.043%	-566	-603	831	1,434	37	1,528	1,491
26.11.1	1,321,130	620,185	700,945	-0.058%	-765	-721	784	1,505	-44	1,427	1,471
26.12.1	1,320,329	619,808	700,521	-0.061%	-801	-729	657	1,386	-72	931	1,003
27.1.1	1,319,297	619,304	699,993	-0.078%	-1,032	-845	680	1,525	-187	965	1,152
27.2.1	1,318,059	618,669	699,390	-0.094%	-1,238	-1,072	705	1,777	-166	1,064	1,230
27.3.1	1,316,886	618,120	698,766	-0.089%	-1,173	-754	642	1,396	-419	965	1,384
27.4.1	1,310,809	614,893	695,916	-0.461%	-6,077	-724	737	1,461	-5,353	3,806	9,159
27.5.1	1,310,743	615,057	695,686	-0.005%	-66	-593	735	1,328	527	3,458	2,931
27.6.1	1,309,993	614,668	695,325	-0.057%	-750	-661	707	1,368	-89	1,222	1,311
27.7.1	1,309,272	614,260	695,012	-0.055%	-721	-607	750	1,357	-114	1,257	1,371
27.8.1	1,308,552	614,004	694,548	-0.055%	-720	-620	724	1,344	-100	1,695	1,795
27.9.1	1,307,723	613,658	694,065	-0.063%	-829	-669	713	1,382	-160	1,670	1,830
27.10.1	1,307,030	613,389	693,641	-0.053%	-693	-592	736	1,328	-101	1,521	1,622

9月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平17.9	18.9	19.9	20.9	21.9	22.9	23.9	24.9	25.9	26.9	27.9
自然動態	出生者数	942	940	765	905	807	810	781	736	750	831	736
	死亡者数	1,091	1,086	1,042	1,167	1,219	1,297	1,224	1,181	1,273	1,434	1,328
	自然増減数	-149	-146	-277	-262	-412	-487	-443	-445	-523	-603	-592
社会動態	県外からの転入者数	1,738	1,590	1,710	1,688	1,538	1,571	1,474	1,382	1,563	1,528	1,521
	県外への転出者数	2,131	1,872	2,020	1,828	1,678	1,493	1,584	1,491	1,498	1,491	1,622
	社会増減数	-393	-282	-310	-140	-140	78	-110	-109	65	37	-101
増減数計		-542	-428	-587	-402	-552	-409	-553	-554	-458	-566	-693

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成22年11月以降の人口は平成22年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 生産動向

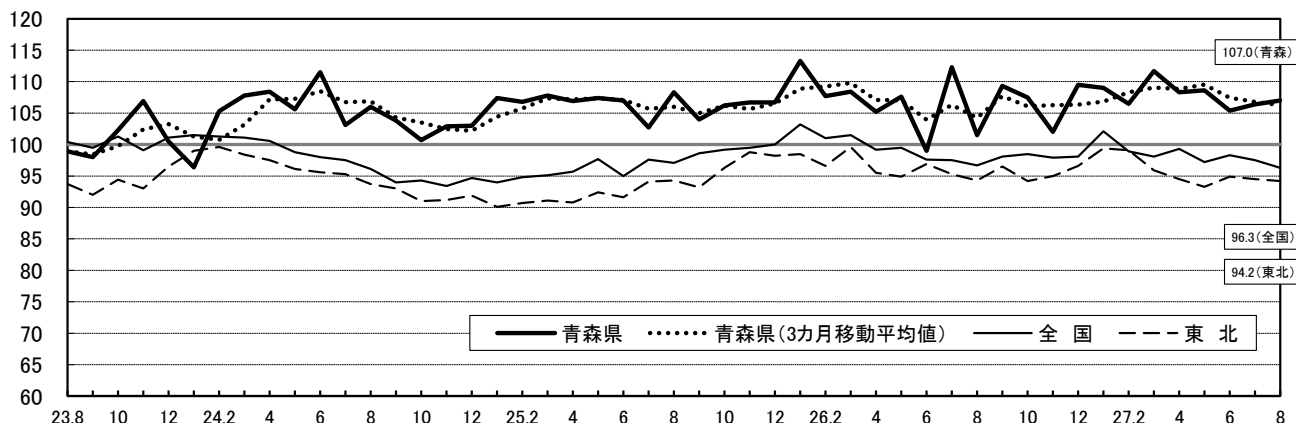
(2-1-1) 製造業の生産

平成27年8月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が107.0で、前月比0.6%の上昇となり、2カ月連続で前月を上回った。また、原指数は103.9で、前年同月比5.4%の上昇となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、金属製品工業、鉄鋼業、化学工業などが上昇に寄与した一方、電子部品・デバイス工業、業務用機械工業、食料品工業などが低下し、鉱工業全体では0.6%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成22年=100)

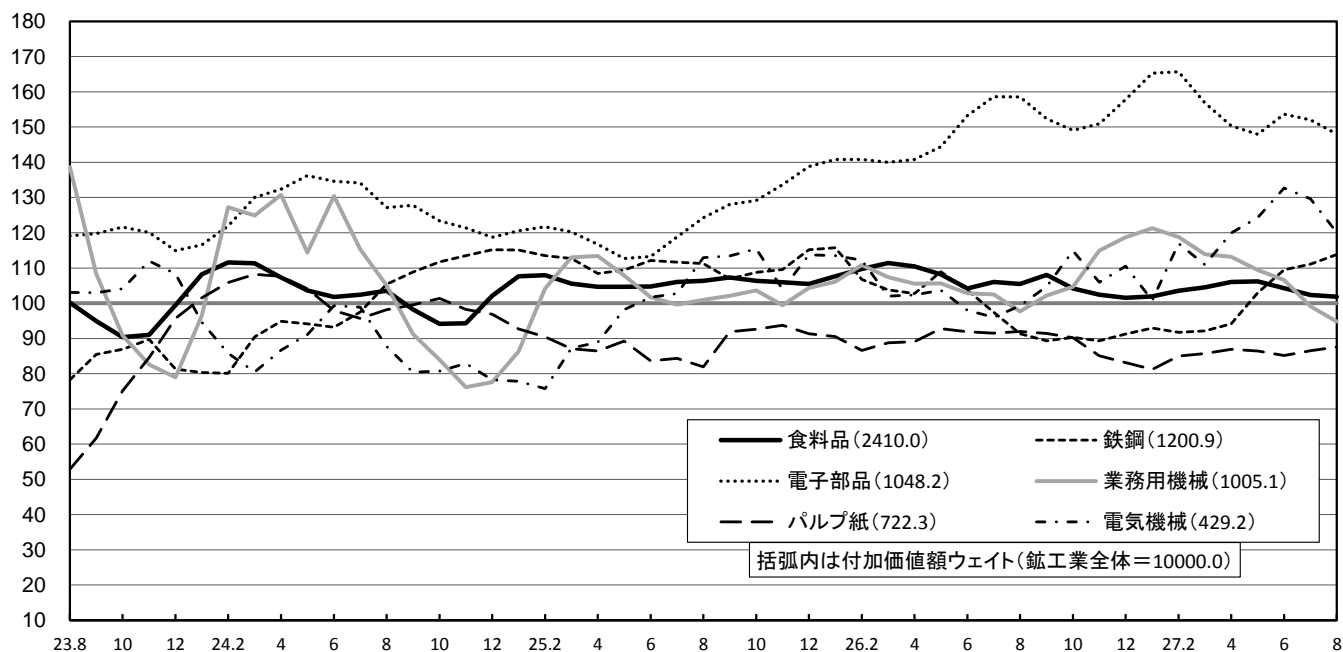


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 0.6%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
金属製品工業	23.8	72.0	電子部品・デバイス工業	-4.8	-46.9
鉄鋼業	8.3	70.1	業務用機械工業	-6.2	-39.1
化学工業	14.5	25.1	食料品工業	-1.0	-15.6
非鉄金属工業	6.8	13.8	生産用機械工業	-13.2	-8.8
その他製品工業	35.7	11.6	家具工業	-13.9	-6.8

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

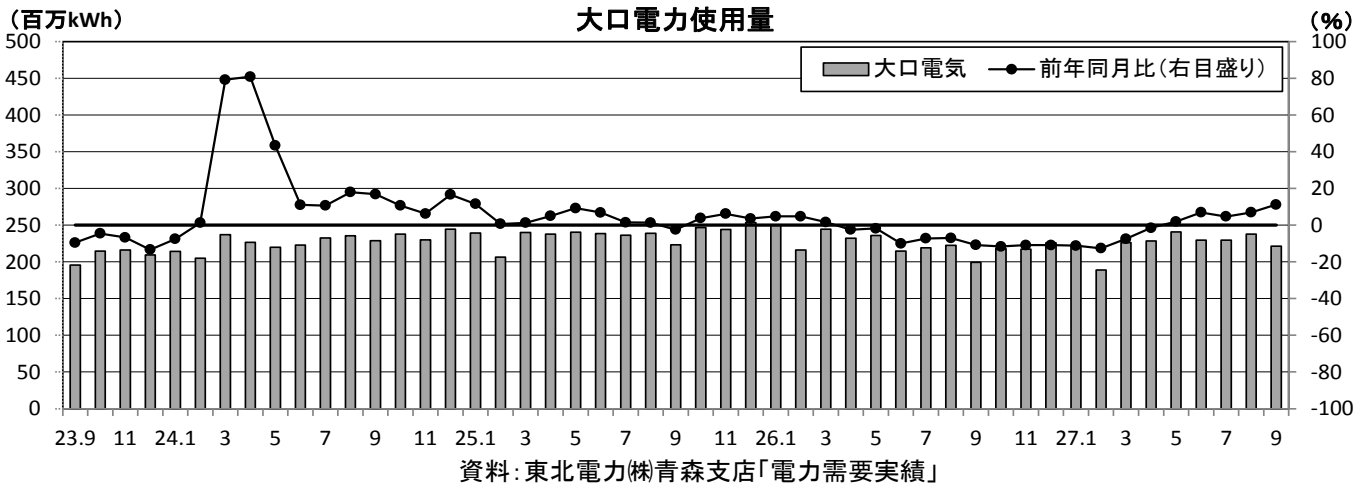
(平成22年=100)



資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-1-2) 電力使用量

平成27年9月の大口電力使用量は2億2,156万kWhで、前年同月比11.2%増となり、5カ月連続で前年同月を上回った。製造業で増加したことによる。

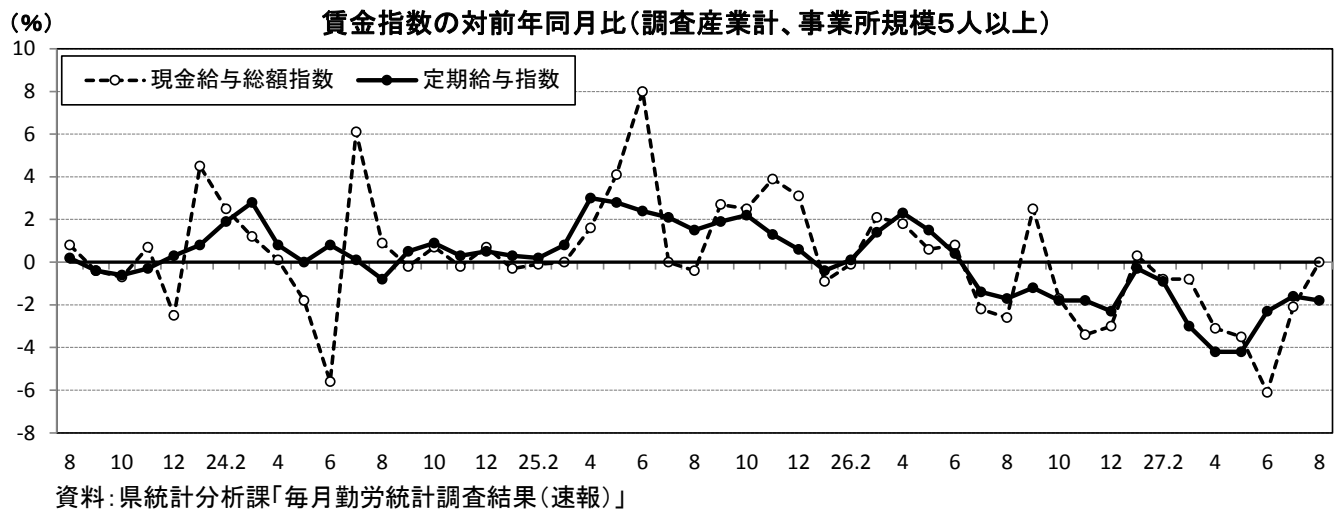


(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間 (毎月勤労統計調査結果)

平成27年8月の定期給与は214,311円で定期給与指数(平成22年=100)では97.4となり、前年同月比1.8%減と14カ月連続の減(現金給与総額229,076円、現金給与総額指数88.8、前年同月比0.0%)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は83.0となった。

総実労働時間は150.1時間で、総実労働時間指数は97.1となり、前年同月比1.7%減と2カ月ぶりの減となった。このうち、所定外労働時間は10.6時間で、所定外労働時間指数は116.5となり、前年同月比7.0%増と9カ月連続の増となった。



賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H22=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	229,076 円	271,913 円	88.8	85.9	0.0 %	0.4 %
定期給与	214,311 円	258,158 円	97.4	98.2	-1.8 %	0.3 %
特別給与	14,765 円	13,755 円	—	—	—	1.9 %
総実労働時間	150.1 時間	141.5 時間	97.1	96.5	-1.7 %	0.3 %
所定内労働時間	139.5 時間	131.1 時間	95.9	96.1	-2.2 %	0.3 %
所定外労働時間	10.6 時間	10.4 時間	116.5	102.0	7.0 %	-0.8 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

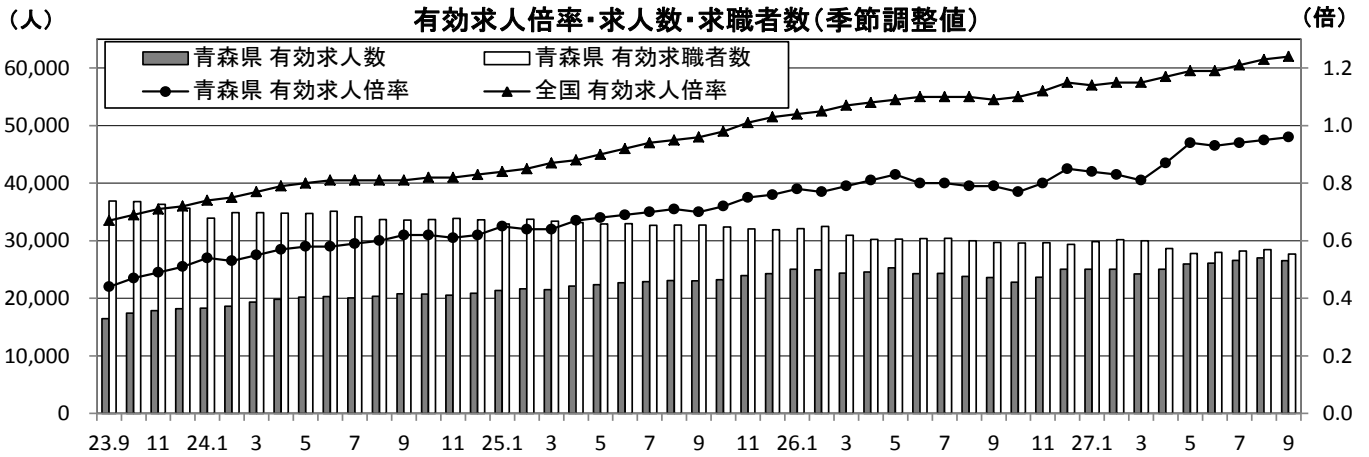
2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

(2-2-2) 有効求人倍率

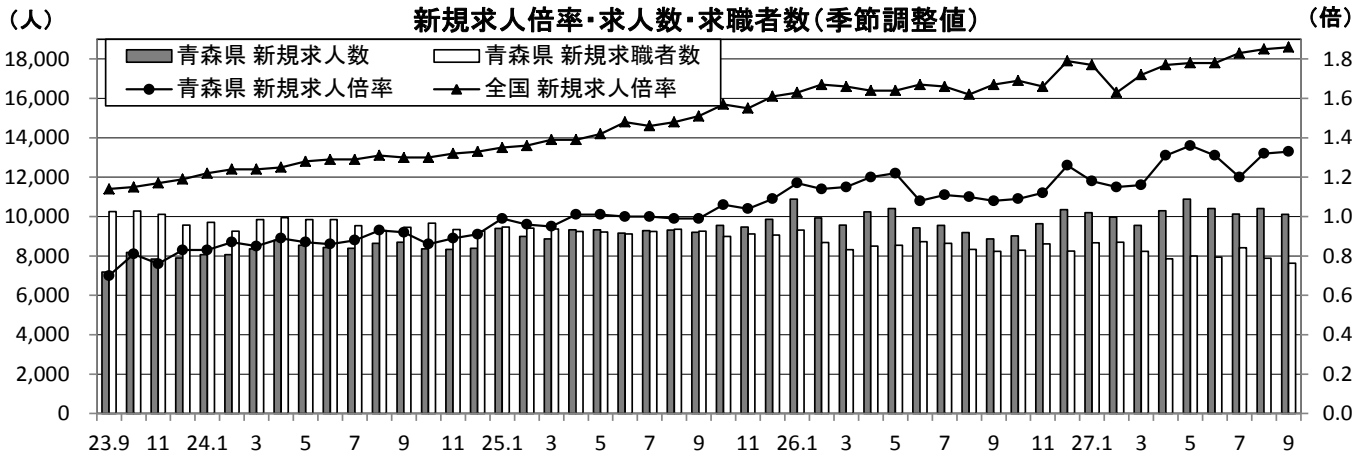
平成27年9月の有効求人倍率（季節調整値）は0.96倍で、前月を0.01ポイント上回り、調査開始の昭和38年以降、過去最高となった。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-2-3) 新規求人倍率

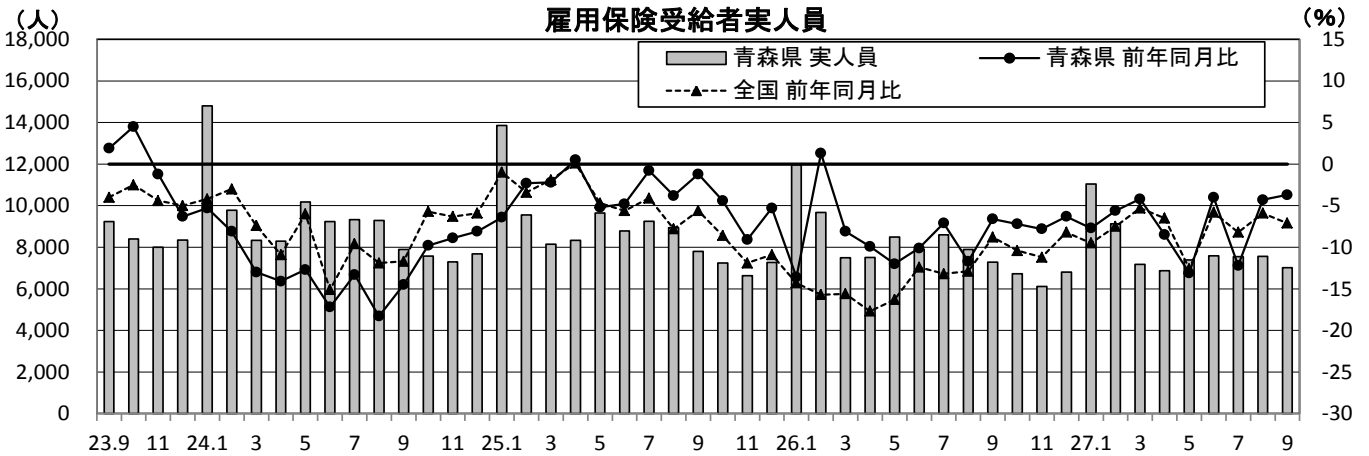
平成27年9月の新規求人倍率（季節調整値）は1.33倍で、前月を0.01ポイント上回り、過去2番目の水準となった。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-2-4) 雇用保険受給者数

平成27年9月の雇用保険受給者実人数は7,020人で、前年同月比3.7%減となり、19カ月連続で前年同月を下回った。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」、厚生労働省「雇用保険事業月報」

(2-3) 物価

平成27年9月の青森市消費者物価指数（平成22年=100）は、総合指数が103.7となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ0.3%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は102.7となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ0.5%の上昇となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は101.5となり、前月と比べ0.5%の上昇、前年同月と比べ1.4%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.2%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料（生鮮魚介など）、被服及び履物（シャツ・セーター・下着類など）の上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.3%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道（他の光熱など）、交通・通信（自動車等関係費など）などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

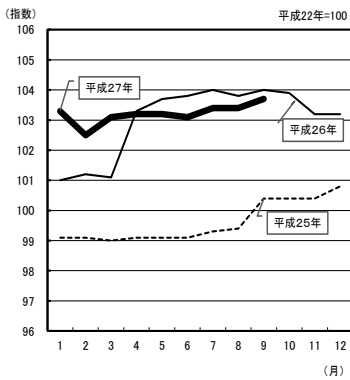


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

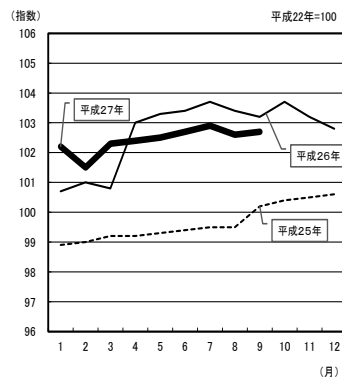
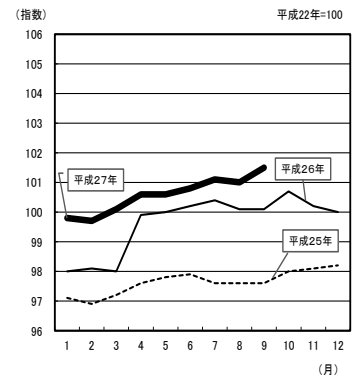


図3 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成22年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家 賃を除く 総合	食料（酒類 を除く）及 びエネル ギーを除く 総合	食料	生鮮 食品	住居	光熱・ 水道	家具・ 家用	被服 ・事 品	被服 履物	保 医	健 療	交通・ 通信	教 育	教 育	教 育	養 楽	諸 雑 費
当月指数	103.7	102.7	104.7	101.5	106.8	125.0	100.1	108.4	91.8	103.7	101.0	103.6	100.9	100.7	109.7				
前月比 (%)	0.2	0.1	0.3	0.5	0.9	3.3	0.1	▲1.6	1.2	5.9	▲0.1	▲1.4	0.0	1.0	0.0				
寄与度	—	0.06	0.23	0.33	0.24	0.17	0.02	▲0.17	0.04	0.20	0.00	▲0.19	0.00	0.09	0.00				
前年 同月 比 (%)	▲0.3	▲0.5	▲0.4	1.4	2.0	3.3	0.8	▲10.9	3.4	▲0.6	2.4	▲2.3	0.9	2.9	0.7				
寄与度	—	▲0.50	▲0.33	0.89	0.53	0.17	0.17	▲1.24	0.10	▲0.02	0.10	▲0.31	0.02	0.27	0.05				

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

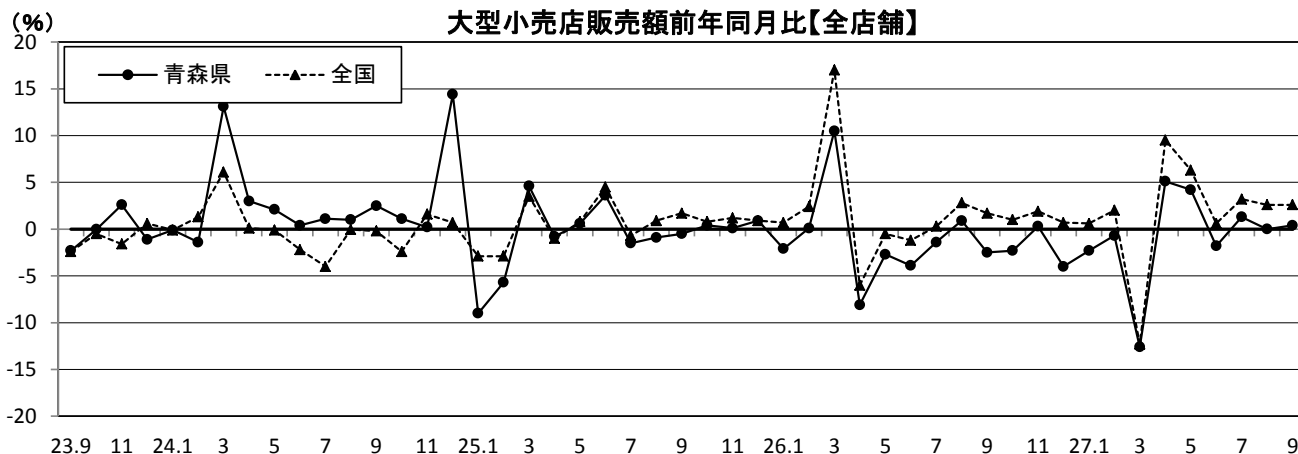
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

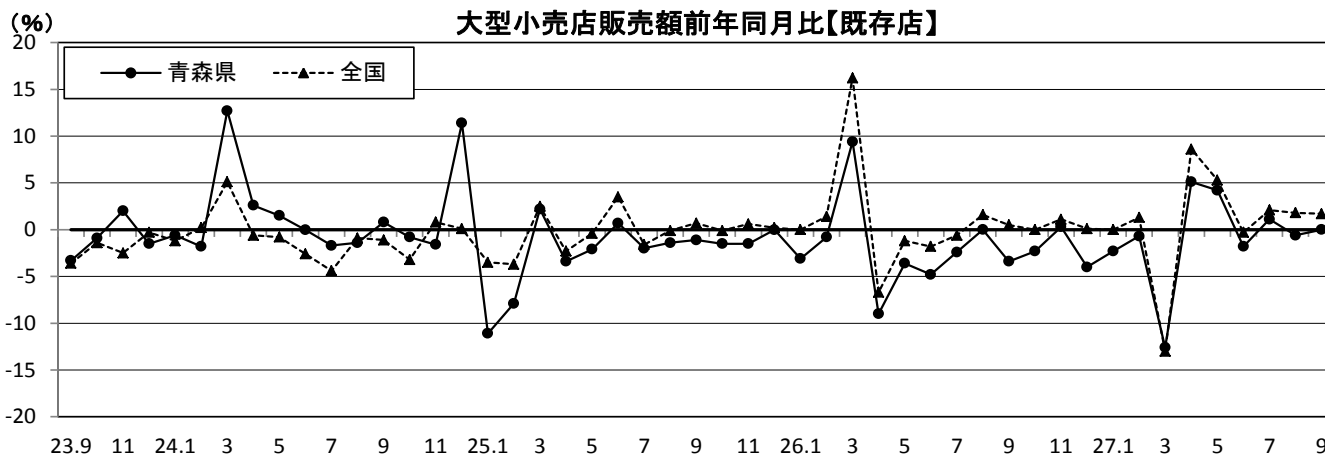
(2-4) 個人消費

(2-4-1) 大型小売店販売額

平成27年9月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが128億円で前年同月比0.4%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月と同水準となった。百貨店で減少したものの、スーパーが増加したことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」、経済産業省「商業販売統計速報」

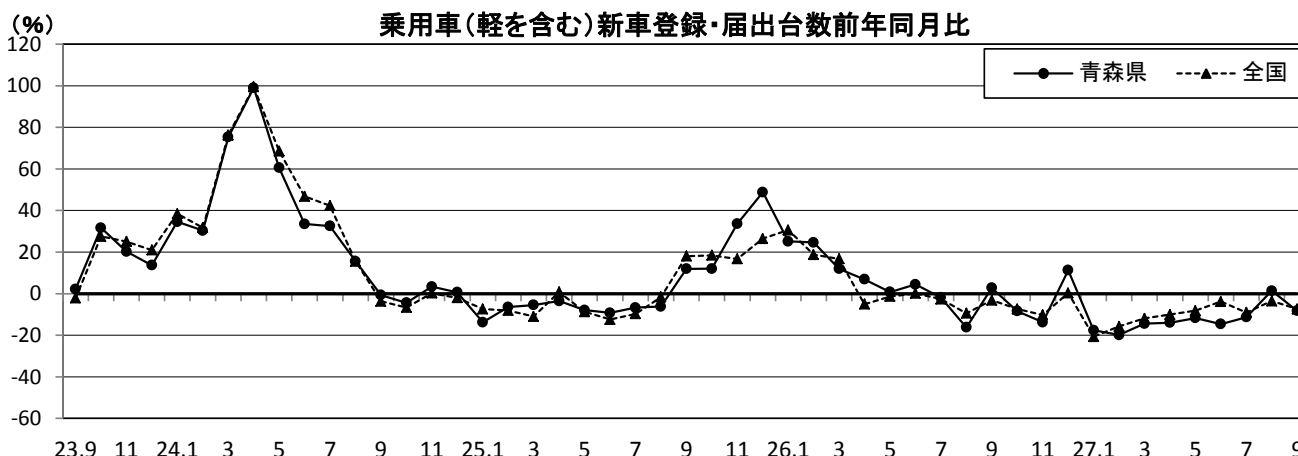


資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」、経済産業省「商業販売統計速報」

* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

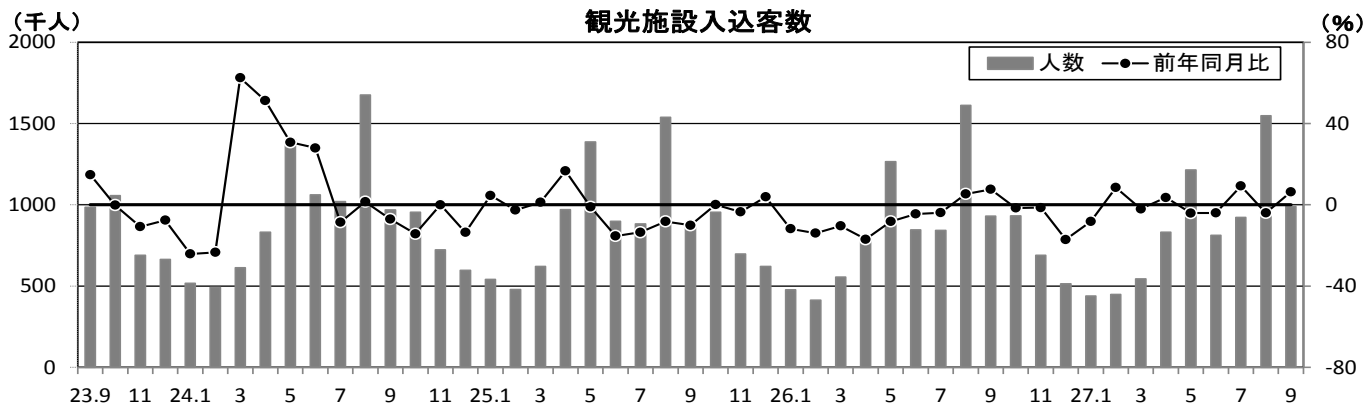
平成27年9月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,244台で、前年同月比8.3%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。普通車、軽乗用車が減少したことによる。



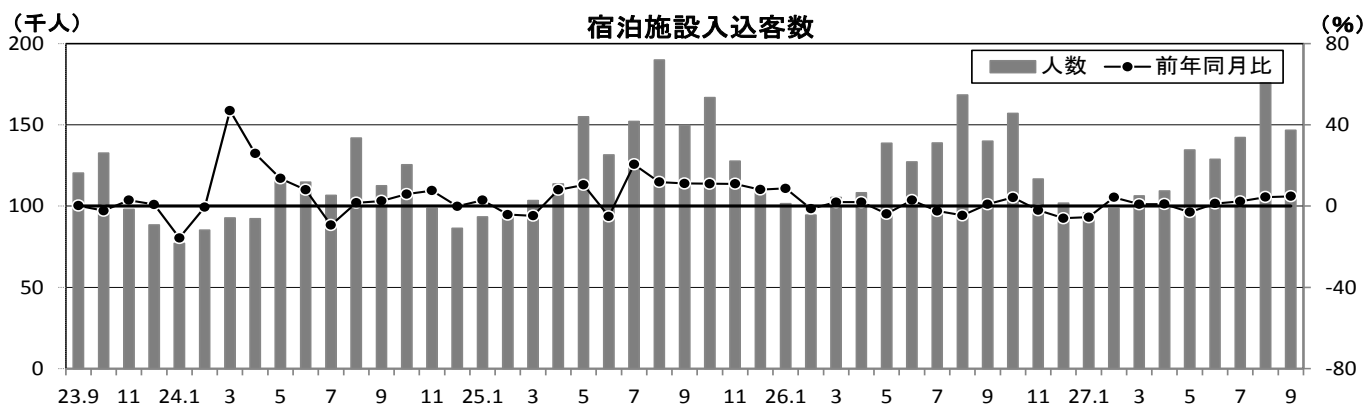
資料：日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

(2-4-3) 観光入込客数

平成27年9月の観光入込客数は、主な観光施設が989千人で前年同月比6.4%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は147千人で前年同月比4.8%増となり、4カ月連続で前年同月を上回った。観光施設は八戸市、青森市等の施設で増加し、宿泊施設は弘前市、八戸市の施設で増加したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設 (H23年は34施設、H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比)

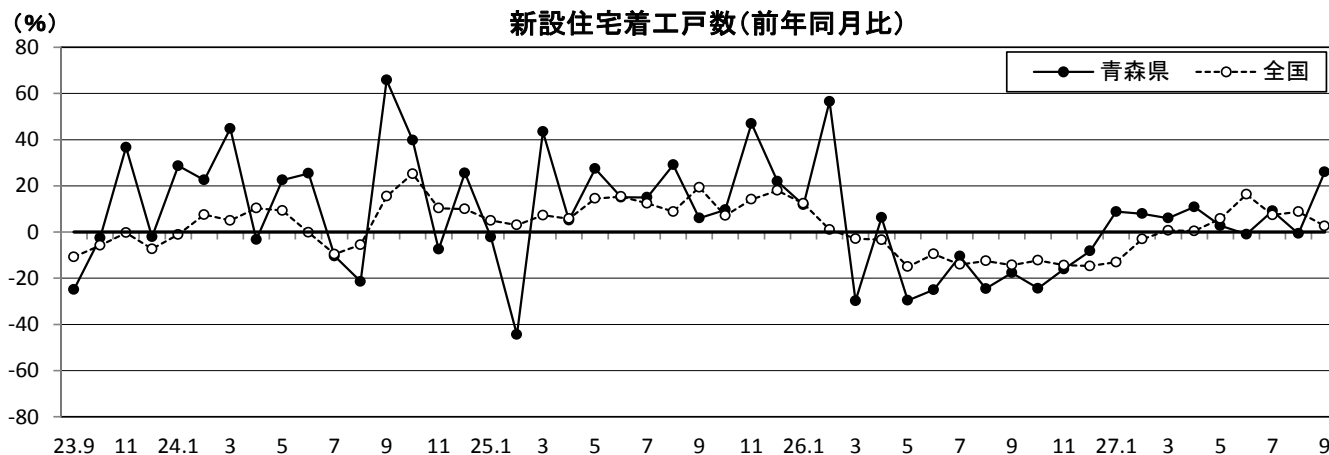


資料：県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設55施設 (H23年は52施設、H24年1～3月は57施設、H24年4～9月は60施設、H24年10月～11月は61施設、H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1月以降は55施設対比)

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

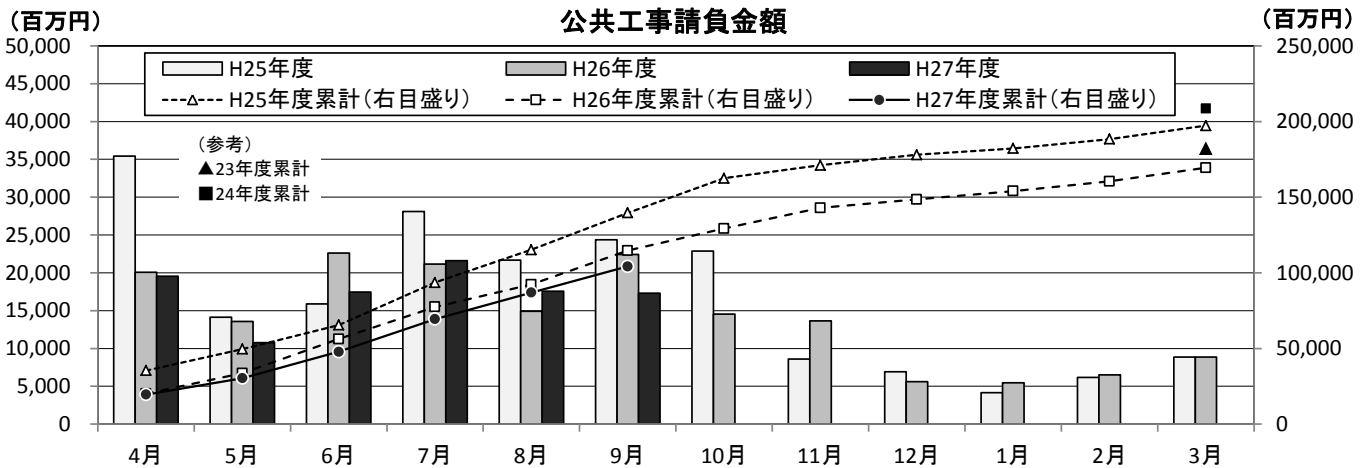
平成27年9月の新設住宅着工戸数は693戸で前年同月比26.0%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。持家、貸家、分譲住宅、給与住宅のいずれも増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-5-2) 公共事業

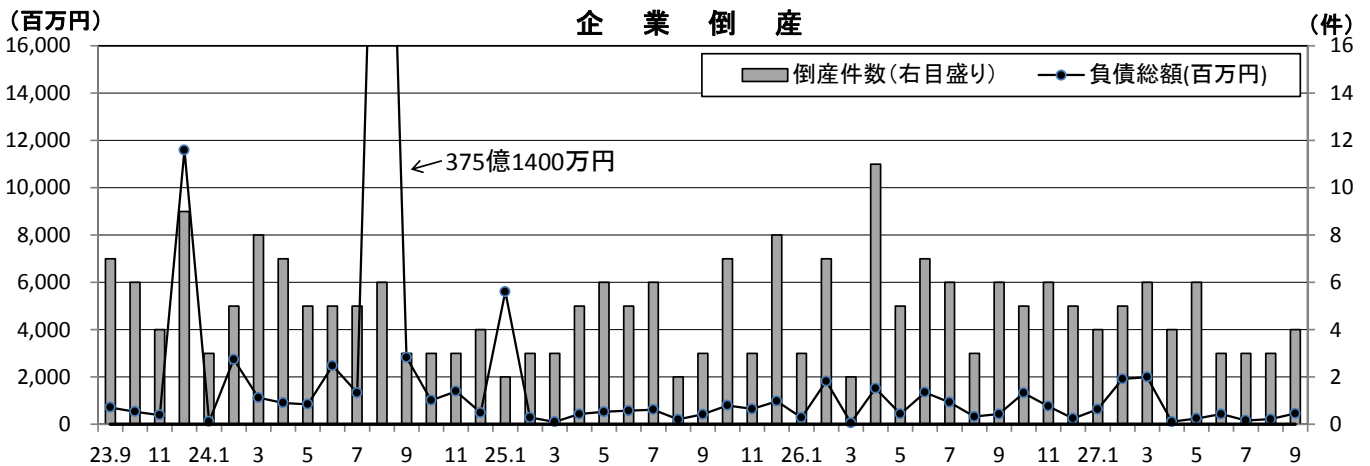
平成27年9月の公共工事請負金額は172億9,800万円で前年同月比22.8%減となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。国、県、市町村で減少したことによる。また、年度累計請負金額は、6カ月連続で前年同月を下回った。



資料: 東日本建設業保証(株)青森支店「青森県内の公共工事の動向」

(2-6) 企業倒産

平成27年9月の企業倒産は、件数は4件で前年同月比33.3%減となった。負債総額は4億5,300万円で前年同月比4.1%増となった。負債総額は1億円以上の倒産が2件発生したことにより増加した。



資料: (株)東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

(3) 青森県景気動向指数

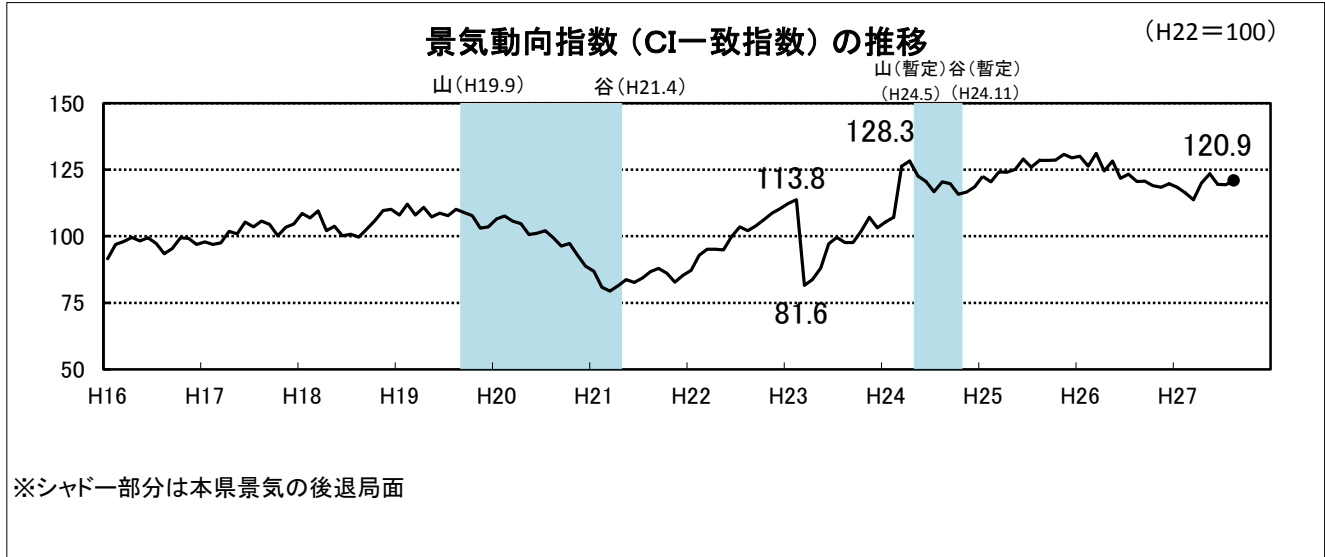
平成27年8月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 117.9、一致指数 120.9、遅行指数 115.1 となった。

先行指数は、前月を 2.0 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した。

一致指数は、前月を 1.5 ポイント上回り、3 カ月ぶりに上昇した。

遅行指数は、前月を 2.4 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した。

8月の一致指数は、生産・物流関連等の指標がプラスになったことから上昇した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
新規求人倍率（全数）	5.91	3カ月ぶり	所定外労働時間指数（全産業）	-4.83	2カ月ぶり
乗用車新車登録届出台数	3.34	2カ月連続	建築着工床面積	-2.69	3カ月連続
生産財生産指数	1.46	2カ月ぶり	新設住宅着工床面積	-1.67	2カ月ぶり
企業倒産件数	0.57	2カ月ぶり	中小企業景況DI	-0.05	2カ月連続
一致系列					
大口電力使用量	1.07	2カ月ぶり	大型小売店販売額（既存店）	-0.64	2カ月ぶり
旅行取扱高	0.41	2カ月ぶり			
東北自動車道IC利用台数	0.38	4カ月連続			
鉱工業生産指数	0.17	2カ月連続			
輸入通関実績（八戸港）	0.12	4カ月連続			
有効求人倍率（全数）	0.05	2カ月連続			
遅行系列					
現金給与総額（全産業）	2.19	2カ月ぶり	りんご消費地市場価格	-2.86	2カ月連続
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	1.33	2カ月連続	県内金融機関貸出残高	-0.08	3カ月ぶり
常用雇用指数（全産業）	0.84	2カ月ぶり			
公共工事請負金額	0.56	2カ月連続			
青森市消費者物価指数（総合）	0.42	2カ月連続			

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数（D I）		
先行指数	87.5%	（9カ月連続で50%を上回った）
一致指数	57.1%	（2カ月ぶりに50%を上回った）
遅行指数	57.1%	（5カ月ぶりに50%を上回った）

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成27年10月期)

現状判断DIは、売上の停滞等から、前期比4.0ポイント減少の49.3となった。

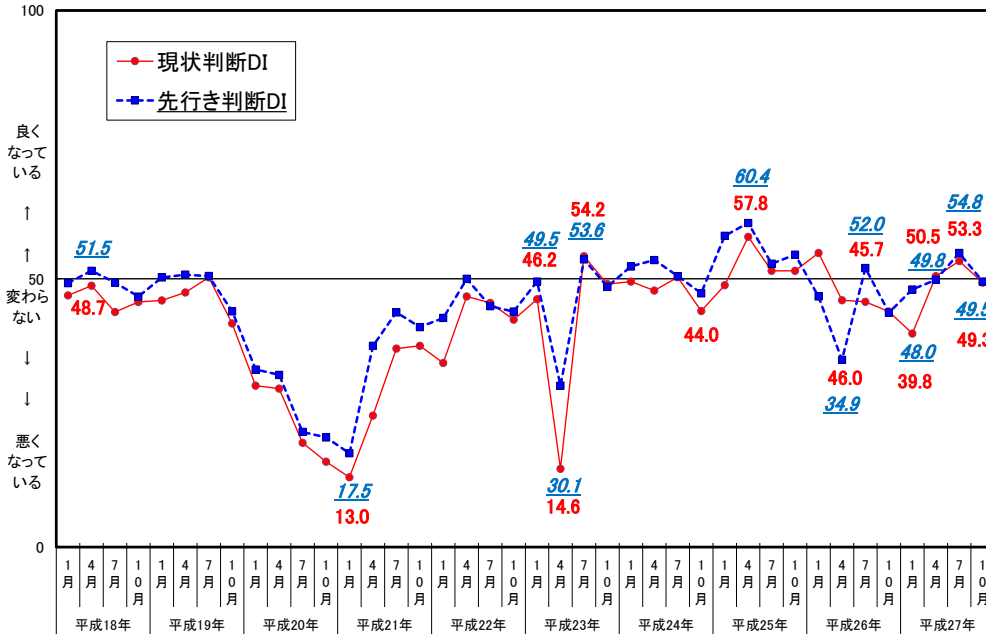
先行き判断DIは、年末の動きに期待が見られるものの、プレミアム商品券の効果の反動やアジア諸国の景気悪化等の懸念から、前期比5.3ポイント減少の49.5となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、前期調査と比べて4.0ポイント減少の49.3となり、景気の横ばいを示す50を3期ぶりに下回った。

3カ月後の景気先行き判断DIは、前期調査と比べて5.3ポイント減少の49.5となり、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに下回った。

(調査期間 平成27年10月1日～10月13日 回答率100%)

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が横ばい、「やや良くなっている」が7.0ポイント減少、「変わらない」が2.0ポイント減少、「やや悪くなっている」が9.0ポイント増加、「悪くなっている」が横ばいであったことにより、全体では4.0ポイント減少の49.3となり、景気現状判断DIは50を3期ぶりに下回った。</p> <p>判断理由では、プレミアム商品券の効果により売上が増加した、シルバーウィークによりお客様の動きが多かった、採用活動を積極的に展開している企業が増加しているといったプラス面をあげる声があった一方で、不要な物は消費しない、客数、客単価に変化はない、売上は前年並みの進捗、悪い材料はないが、良い材料もないといった動きの少ない状況をあげる声が多くあった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが減少し、東青、下北地区では、景気現状判断DIを示す50を3期ぶりに下回った。</p>
--------	--

● 3カ月後の景気先行き判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなる」が横ばい、「やや良くなる」が18.0ポイント減少、「変わらない」が16.0ポイント増加、「やや悪くなる」が1.0ポイント増加、「悪くなる」が1.0ポイント増加したことにより、全体では5.3ポイント減少の49.5となり、景気先行き判断DIは50を2期ぶりに下回った。</p> <p>判断理由では、年末の動きに期待する声があった一方で、灯油等の燃料費の負担増加、プレミアム商品券の効果の反動、アジア諸国の景気悪化による注文の減少、賃金のベースアップに伴う固定費の上昇を懸念する声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、県南地区で0.8ポイント増加したものの、その他の地区では減少した。東青、県南地区では、景気先行き判断DIを示す50を上回ったものの、下北地区では50ちょうど、津軽地区では50を下回った。</p>
--------	---

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

● 3カ月前と比べた景気の現状判断理由

- 「プレミアム券」の効果が出ています。利用開始の6月後半から売上は増加している。収入は増えていないので一時的な傾向とは思いますが、街の雰囲気が違うような気がする。(衣料専門店=東青)
- 9月シルバーウィークと割引旅行券を利用する宿泊客が増えた為。(観光型ホテル・旅館=津軽)
- シルバーウィーク等の連休があり普通よりは、お客様の動きが多かった。(一般飲食店=県南)
- 出荷数量の下げ止まり、新商品、季節商材に関する受注も反応が良くなってきた。ようやく消費税アップ、値上げの影響が薄れてきた感あり。(飲料品製造=県南)
- 社員、人数を増やすための採用活動を積極的に展開している企業が増えていると感じた為。(人材派遣=東青)
- 今のところ、3ヶ月前と比較しても、集客、受注ともに大きな変化がみられていない為。(住宅建設販売=東青)
- 客数、客単価については、変化がない。(スーパー=東青)
- 売上は前年並みの進捗。7月～9月売上は前年並み。(百貨店=津軽)
- 建設業の場合、今の時点で今年度の売上目標達成が可能な数字が上がっている会社は多くはないと思う。(住宅建設販売=津軽)
- 受注物件数、月別売上金額等に変動が無く経過している。(広告・デザイン=津軽)
- 悪い材料もないが、これといった良い材料もない。(新聞社求人広告=県南)
- △ 売上と入場人数が減少している。(競輪場=東青)
- △ 7月はよかったが、消費税増税の影響が収まってきた去年の9月に比べて、今年の9月は前年割れをしたために下向きになってきたように感じる。(一般小売店=津軽)
- △ 確実に来店頻度が長くなっています。いつもの1か月以上遅い方が増えた感じです。(美容院=県南)
- △ 土建業の仕事が少ないらしく、それに付随した業者の業績が悪いらしく、我々も軽油の数量が減っている。(ガソリンスタンド=下北)
- △ 製造業は輸出の注文が落ち込み、明らかに景気悪化している。一方で、建設や土木、サービス業の方々は引き続き好調で単価も高い。差し引きで”やや悪くなっている”とした。(電気機械製造=県南)
- × 賃金だけが上がり、景気がリンクしていない。(ガソリンスタンド=津軽)

● 3カ月後の景気の先行き判断理由

- 以前と比較して、少し高級なもの(グレードの良い物)を希望するお客様が増えてきていると感じる。(設計事務所=津軽)
- 年末は、地域的に買い物が多くなり、帰省客も増える。(スーパー=県南)
- 年末に向けて、人の動きが期待できる。(タクシー=下北)
- 年末の最盛期に向かって推移が順調、期待できる。(飲料品製造=県南)
- 不透明感が強く足踏み状態が続くと思われる。(都市型ホテル=東青)
- 財布の紐は依然として固い。(乗用車販売=県南)
- これから灯油等の燃料費の負担が増えるため、売上が上がるとは思えません。(コンビニ=県南)
- 客数は伸び悩んでおり、可処分所得の減少等で消費は一進一退の足踏み状態と思われるため先行きは不透明である。(百貨店=県南)
- 現在の予約状況を見ると前年並みで推移しているため。(都市型ホテル=下北)
- 農作物の収穫は、今のところまざるまざるようなので、少しずつ景気に反映されてくることを期待したいが、マイナンバー施行に伴う事務経費が多少かさんで来る事業所も出てきている。(経営コンサルタント=津軽)
- 顧問先の多くで賃金のベースアップを図っており、結果的に固定費の上昇となった。収入の方は、若干回復基調なので、プラスマイナスゼロか。(経営コンサルタント=県南)
- プレミアム商品券の使用期限が終わったり、冬場に入っていくため。(食料品製造=下北)
- △ 「プレミアム券」の効果の反動と実質賃金が増えていないようですので、景気浮揚の要素が見えない。(衣料専門店=東青)
- △ 消費税が8%に上がる時が決まっていた時は2～3年前からお客様の動きがすでにあっただが、今回はまだ全然その動きが感じられない。(住宅建設販売=津軽)
- △ 観光シーズンも終わり、景気が良くなる要素が見当たらない。(ガソリンスタンド=下北)
- △ 中国を中心にアジア諸国の景気は悪化していて注文も減っている。しかし、円安での旅行者や燃料安で国内の需要が喚起されている様子が見受けられ、すぐに大きく悪くはならないと感じる。(電気機械製造=県南)
- × このまま、地元の人達が外食や飲み会にお金をかけず、忘新年会の数が減ると、今後3カ月は今より悪くなると思います。(レストラン=県南)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」